

Title	日本語慣用句とその指導について：「手」を含む慣用句を中心に
Sub Title	
Author	顧, 翌清(Ko, Yokusei)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2012
Jtitle	日本語と日本語教育 No.40 (2012. 3) ,p.158- 158
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20120300-0158

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

〔日本語教育学講座修了論文〕

日本語慣用句とその指導について ——「手」を含む慣用句を中心に——

顧 翌 清

日本語慣用句はたくさんのもので出てくる。しかし、現在、中国の日本語教育現場において、日本語慣用句は受けるべき重要視を受けていなく、そのゆえ、外国人学習者にとって、日本語慣用句の勉強はなかなか難しいと言われている。本稿では、日本語慣用句を研究することにより、より効率の良い日本語慣用句の指導法を探りたいと思っている。

第一章は、今までの日本語慣用句の先行研究を振り返ってまとめる。取り上げたのは、白石大二氏、宮地裕氏、国広哲弥氏、森田良行氏、初山洋介氏、石田プリシラ氏、という六人の説である。

第二章は、第一章の先行研究と六冊の辞書（中国の辞書が一冊、日本の辞書が五冊）を踏まえつつ、日本語慣用句の定義と分類（品詞上、意味上、辞書）を行う。そして、諺や四字熟語のような日本語慣用句の周辺にあるものも含めて分析し、それらと日本語慣用句の違いを説明する。

第三章は、第二章で使われている六冊の辞書に基づき、その中に載ってある「手」を含む慣用句を例に挙げ、一つのデータベースにまとめる。合計 217 例の「手」を含む慣用句はそれぞれ何冊の辞書に載っているのか、その使用状況と頻度を分析する。更に、このデータベースを通し、中国人編集者と日本人編集者が辞書を編集する際、日本語慣用句に対する取り扱いの違いも窺うことができる。

第四章は、国立国語研究所のコーパスを使い、99 項目の「手」を含む慣用句の白書や小説などにおける例文を読み、見出し語は「手」でない慣用句と字面の意味しか持っていない慣用句を研究範囲外にし、残った 74 項目の「手」を含む慣用句のそれぞれの例文を意味別で分類し、データベースを作り、その調査結果を提示する。

第五章は、日本慣用句の教授法の先行研究を振り返り、中国における日本語慣用句の教育現状も分析し、第四章で取り上げた 74 項目の「手」を含む慣用句を中心に、コーパスの例文を提示しながら、日本語慣用句の指導法を具体的に説明する。

本稿の研究を通し、従来から大変難しいと言われている日本語慣用句の勉強に少しでも役立つことができればと思っている。今後の課題として、日本語慣用句の更なる分類の基準、日本語慣用句を教科書に提示する時の順序、日本語慣用句を含む例文や会話作りなどが考えられる。